

実践報告

# 教員免許状更新講習 「学校現場で活用できる学習管理システム」の実践

穂屋下 茂\*

Practice of the Workshop for Updating a Teacher's License  
"A Learning Management System to Utilize in the School"

Shigeru HOYASHITA\*

## 【要約】

2011年度の教員免許状更新講習から「学校現場で活用できる学習管理システム（初級）」という名称で、学習管理システム（LMS: Learning Management System）上で初歩的なeラーニングの実践が体験できる講習を実施してきた。学校現場では、教師のICT活用教育スキルの向上は必須であるが、LMSに対する意識はかなり低い。本講習では、実際に学生権限と教師権限でLMSを使用し、設定やコンテンツ作成なども行い、学校現場のICT活用の有用性を学ぶことを目的とした。LMSとしては世界中でよく使用されているオープンソースのMoodleを使い、その機能について学び、フォーラム、資料提示、小テスト、課題レポート、フィードバックなどを扱った。8年間の講習の実施状況と受講した教師の反応について報告する。

## 【キーワード】

教員免許状更新講習, ICT活用教育, 学習管理システム, eラーニング, 学校現場

## 1. はじめに

ICT活用教育は、県や市の教育委員会等が推進している学校（小中高）と大学等の高等教育機関ではその形態がかなり異なる。学校におけるICT活用教育の実践は、教室で電子黒板やタブレット端末を用いた形式が主流である<sup>(1)</sup>。一方、大学等で実践されているICT活用教育は、一般にeラーニングと呼ばれるもので、電子黒板等の利用には重きを置かず、学習管理システムの機能を活用しながら、さらに様々の教材を利用して自主的に学習する形式である<sup>(2)</sup>。

LMSはいわば仮想教室であり、学校のシステムでも使われているが、教師や生徒らはそのシステムを意識することなく、日常の授業の一部として学

習に使っている状態である。しかし、このLMS等の持っている機能を使えば、教師はもっと自由にICT活用教育を推進することができる。高度情報化社会が一段と進む社会情勢において、学校現場にいる教師のICT活用教育スキルの向上は増々必要になるであろう。

教員免許状更新講習「学校現場で活用できる学習管理システム（初級）」<sup>(3)</sup>では、はじめに大学教育におけるICT活用教育の状況や本学におけるeラーニングの利用状況等を説明した。そのあとLMS（Moodle）が持っているフォーラム、動画配信、資料提示、投票、小テスト、課題提出、フィードバック（アンケート）などの設定を行って、LMSがいかに便利に使えるか体験することを目的とし

\*佐賀大学全学教育機構 クリエイティブ・ラーニングセンター

た。

## 2. 大学教育におけるICT活用教育

大学教育におけるeラーニングは、注目されて15年以上経過し、珍しい学習方法ではなくなったが、十分に活用できているとは言い難い。

そのような停滞状況において、中央教育審議会（答申）がでた<sup>(4)</sup>。「教育の質的転換への好循環（学修時間の実質的な増加・確保→教育課程の体系化→教育方法の改善→教員の教育力の向上→学修成果の把握→学修支援環境の充実）」を確立させるためには、教員や職員の手間を極端に増やさずに運用できるICTツールを全面的、あるいは部分的に活用するのが効果的である。eラーニングのみで対面式の少人数教育に勝るとは言い難いが、例えば、反転授業等の手法を上手に導入すると、教育の質を格段に向上させることができる<sup>(5)</sup>。

### 2.1 佐賀大学のeラーニングへの挑戦

本学では全国の大学に先駆けて、2002年4月から一般教養科目において、単位の取得できるネット授業を実施している<sup>(6)</sup>。本学では、eラーニングシステム（サーバ、LMS、eラーニング教材、メンターによる教員・学生等の支援方法等）を自大学で構築し、さらに発展し続けているICT活用技術にも対応している。その結果、経験を重ねるに従って必要なICT活用スキルが学内の教員や技術職員（eラーニングスタジオスタッフ）に蓄積されてきた。

図1に示すように、ICTを活用した大学教育（ネット授業<sup>(7)</sup>やLMSを利用した授業<sup>(8)</sup>）のほか、同期型遠隔授業<sup>(9)</sup>、eラーニングによる予習とアクティブ・ラーニングを利用した反転授業<sup>(10)</sup>、デジタル表現技術者養成プログラム<sup>(11)</sup>、大学間連携共同教育推進事業（教材等の共有化）<sup>(12)</sup>、入学前教育（高大連携）<sup>(13)</sup>、リメディアル教育（高校教育までの補習）<sup>(14)</sup>、生涯学習（資格試験等を含む）<sup>(15)</sup>、eラーニングによる教員免許状更新制講習<sup>(16)</sup>などICTを活用した様々の事業を実施してきた。

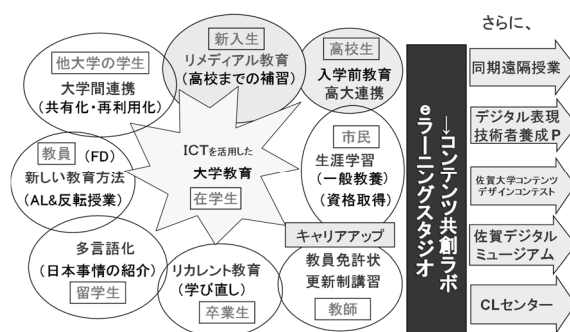


図1 ICT活用教育実践の広がり



図2 デジタル表現技術者養成プログラム

### 2.2 デジタル表現技術者養成プログラム

2009年度から、この蓄積されたICT活用スキルを基にして、全学部の学生を対象にした「デジタル表現技術者養成プログラム」を開講して、高度情報化社会で必要とされている自律性や想像力、創造力を付けさせる人材育成を行っており、他大学には見られない本学の強み・特色となっている。デジタル表現技術者養成プログラムは、いわば副専攻のようなものである。2012年度からインターフェース科目となり、2018年度から正式に副専攻科目になる予定である。本プログラムでは、図2に示すように、イラストレーター等を使った授業も行っており、学生の就業力を育成することも行っている。

### 2.3 教育関係共同利用拠点に認定

佐賀大学全学教育機構クリエイティブ・ラーニングセンターは、文部科学省の「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（ICT活用教育）」として、2016年7月29日に認定された<sup>(17)</sup>。

共同利用拠点は、全国の高等教育機関（大学、短期大学等）が利用できる施設として、全国の大学の教員・職員は、各自の能力に応じたICT活用教

育スキルが習得できる機会を持つことができるようになる（図3）。共同利用拠点は、ICT活用教育の共同利用を目的としているので、初等・中等教育機関等も利用可能にしている。共同利用拠点のFD/SDに関する取組の目的は、どの大学でも必要になってきている「リメディアル教育」、「初年次教育」や「キャリア教育」等をICT活用教育の手法を用いて、教員は誰でも遂行でき、職員は誰でもそれを支援することができるようになることである。

### 3. 学習管理システムの体験

本講習は、学校現場の教師に「なぜ学習管理システムが必要か」ということ理解させるために、「佐賀大学におけるICT活用教育の取組」を説明し、さらにMoodleを学生権限と教師権限で体験する構成プログラムになっている。

先ず学生権限でMoodleにログインして、資料のダウンロードを行うところからスタートしている。コース「学校現場で活用できる学習管理システム（初級）」にログインした画面を図4に示す。



図3 ICT活用教育共同利用拠点到認定



図4 Moodleの画面

#### 3.1 体験Ⅰ（学生権限で何ができるのか）

教員免許状更新講習「学校現場で活用できる学習管理システム」の体験部分を表1に示す。講習時間は、「佐賀大学のeラーニングへの挑戦」や最後の確認試験も入れて6時間である。しかも、LMSの使用経験もなく、身近にLMS環境もない場合も多く、講習後すぐに使用する機会も少ない教師が対象である。そこで、到達目標は「LMS体験」と「最低限のオペレーションスキル」とし、LMSが教育に利用できるツールとして体験できるような内容にした。

表1 教員免許状更新講習の体験内容

項目	説明
ねらい 到達目標	学習管理システム(LMS: Learning Management System)上で、eラーニングが実施するための初歩的な方法を説明する。実際に、教員レベルでもLMSを使用し、設定やコンテンツ作成を行い、学校現場のICT活用の有用性を学ぶことを目的とする。
講習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>講習は実習形式でPCを操作しながら学ぶ。</li> <li>eラーニングはLMS上で実施されることを体験する。</li> <li>LMSとしてMoodleを使う。</li> <li>その機能(フォーラム、資料提示、小テスト、レポート提出、投票、アンケート等)を行う。</li> <li>はじめに学生権限で学び、次に教員権限で各種の設定やコンテンツ作成を体験する。</li> </ul>

Moodleは様々な機能を持っている（表2）。受講教員の場合、全くの未経験者が作成するまでを行うため、シンプルに機能説明を心がけた。フィードバック（アンケート）や小テストにはさまざまな設定項目があるが、概要説明のみとし、実際に作成するものと同じものを体験する構成とした。

表2 LMS（Moodle）の機能

<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>掲示板(教員のみ投稿可)</li> <li>談話室(学生も投稿可能 → 質疑応答可能)</li> <li>グループワーク時の資料置き場:PPTをアップ→誰でも閲覧可</li> </ul> </li> <li>・評価・ログ → 進捗状況、学修時間等把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 予習してきたの？</li> </ul> </li> <li>・様々な学修教材の提示(リンク)</li> <li>・資料配布(PPT、PDF)</li> <li>・毎回確認テスト(小テスト)(平常点) → 中間試験、期末試験</li> <li>・課題提示 → レポート等提出可能</li> <li>・投票 → クリック利用</li> <li>・グループ活動</li> <li>・アンケート (授業前アンケート、授業後アンケート)</li> </ul>
--

### 3.2 教師権限で何ができるのか（体験Ⅱ）

受講教員の場合は、一番の目的が「教員免許状更新」であり、最終試験に必ず合格しなければならない。一人ひとりが一つのコースを作成するようにしている。コースに設定されている教員は本人だけで、隣の受講者とペアになって、「教員と学生」の役割を交互に体験する。作成する項目も、資料の提示、フォーラム、オンライン課題、4択の小テスト、投票、ラベルなどの基本的な項目のみとした。

教員免許状更新講習の場合、少ない時間でサイトを使い分けるのは混乱をきたすため、同じサイトに学生として受講するコースを設置している。受講教員は、サイトにログインすると、「学生としてのLMS利用」のためのコースと「教員としてのLMS利用」のためのコースが表示される。

Moodleの小テストの作り方は独特である。小テストの問題と中身（問題バンク）があって、小テストは問題バンクから抽出した形で成り立っている（図5）。問題は、問題バンクに多くの問題を備え、テスト問題をランダムに出題かつ、選択解の順番をシャッフルすれば、隣同士でもカンニングできない。また、何度も受験でき、90%以上になるまでやらせると非常に効果的である。ただし、間違ったとき解説がないと、学習効果は低くなる。

## 4. 実施状況

開講した講習は、開講が2011年7月、対象が「小・中・高教諭、養護教諭」で、受講者は69名で、講師に2名の教員、サポートとして3名の職員、3名の学生で実施した。以後も毎年7月末に実施している。サポート体制は参加者数に応じて減っているが、参加者のICTスキルのレベルは様々であるので、初心者が脱落しないようになるべくサポート体制には配慮している。2016年の講習の様子を図6に示す。受講者数の経緯を図7に示す。2017年度は受講者が極端に減っているが、佐賀県のICT活用教育の推進状態が鈍ったためということも考えられる。

受講条件は「ファイル操作、文字入力などのパソコンの基本的操作はできること」としており、予習項目にも「Microsoft Wordを使用するので、

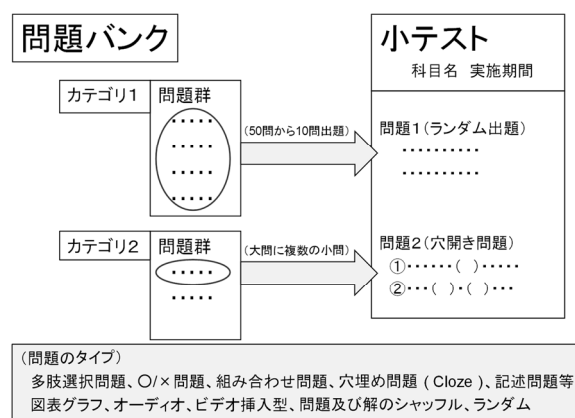


図5 小テストの構造



図6 講習の様子

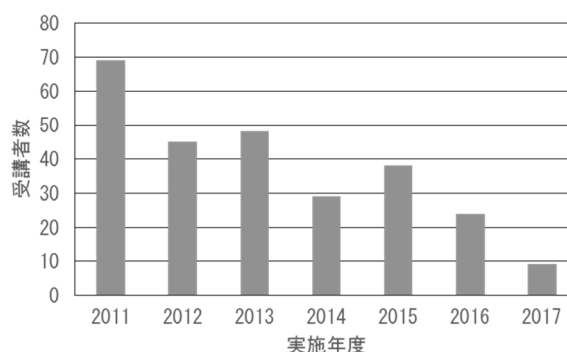


図7 受講者の推移

文字入力、ファイル操作が問題なくできるようにしておく」となっている。にもかかわらず、シラバスを読まずに日程だけで受講を決め、スムーズに文字入力できない人も少なからず受講している状態である。そのため、附録の記述にも見られるように初心者にもすぐに対応できるサポート体制に対する評価は高かった。

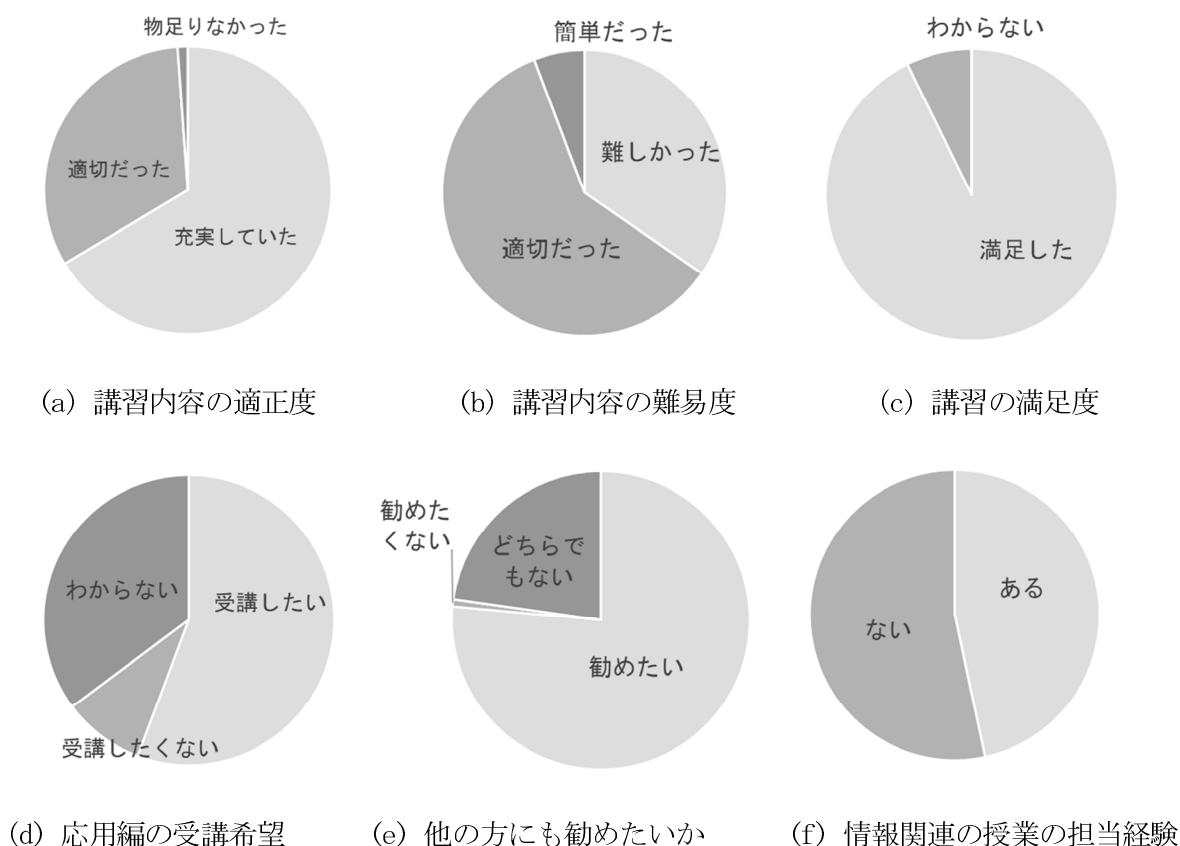


図8 アンケートの結果

## 5. 受講者のアンケート結果

受講後アンケート結果の一部を図8に示す。(a)講習内容の適正について、(b)講習内容の難易度について、(c)今回の講習の満足度について、(d)今回より難易度が高い応用編の講習の希望の有無、(e)今回の講習を他の方にも勧めたいか、(f)情報関連の授業を担当された経験の有無について質問した結果である。

(c)の講習の満足度については、「受けなければよかった」という回答はなかったものの「わからない」という回答もあり、「実際に現場で利用する機会がない」ために多かったと思われる。(a)の講習内容に関しては、若干ではあるが「物足りなかった」という意見があり、(b)の講習内容の難易度については「簡単だった」という意見もある一方、「難しかった」という意見がかなりあった。講習会の受講者は、(f)の情報関連の授業の担当経験の回答から分かるように、PC操作やICT活用スキルが全くの初心者から、或る程度スキルを備えた人が一緒であったためであろう。しかし、「難しかった」

と言いつつもアンケートの自由記述では、ICTの重要性や学校への導入の期待などを言及するものも多く、講習の必要性は十分に感じられた。

教員免許状更新講習は、受講教員がその趣旨を理解しているとは言えず、「新しい分野に挑戦しよう」、「最新の知識を得よう」というようなモチベーションが高い人だけでなく、「更新のために必須だから」受講するという人がいる。

アンケートの自由記述欄（感想など）には、いろいろな意見やコメント、要望が書かれていた。それらの記述は興味深いものが多々あった。その中で目を引いた意見・コメント・要望等を30件選んで、附録として本論文の最後に掲載した。受講者の要望は、「もっと高度なスキルが体得できる講習を」という前向きな要望も多かった。

## 6. おわりに

2011年度から、教員免許状更新講習の一環として、学習管理システム（Moodle）の初歩的な利用体験ができる講習を実施してきた。本講習は、大

学の授業「教育デジタル表現」をアレンジしたものである。6時間という短い時間ではあるが、「佐賀大学のICT活用教育の現状」の説明から、Moodleを学生権限及び教師権限で実際に操作するなどの体験を行った。最後に確認テストを行った。

本学の事例を基に大学教育の現状を説明すると、佐賀県は学校も大学も両方ともICT活用教育が進んでいるという驚きと再認識の言葉も聞かれた。

本講習は、PCとLMSの操作の支援のために、講師のほかに数名のサポート体制で実施した。「PCの扱いが不得手なのに、親切に最後まで面倒を見ていただいて・・・」という多くの感謝の言葉があった。中には、この実施体制は教育の基本で見習いたいというコメントもあった。また、現在実施されているICT活用教育の仕組みが分かった。これからその利便性・必要性が高まるだろうということも理解できたとか、かなり前向きな意見・コメント等が多数聞かれた。

LMS (Moodle) 上の「セクション概要の編集」、「掲示板・談話室の追加」、「配布資料の追加」、「参考サイトの追加」、「ラベルの追加」、「レポート課題の追加」、「くだもの調査の追加」、「小テストの追加」などの機能はどれもよく作成されている機能だと感じた人も多かった。

しかしながら、Moodleはオープンソースであるが使える環境を簡単には構築できないので、すぐに授業等で使えないこと、また初級のみでなく、中級・上級の講習も設けて欲しいなどの要望もあった。

ICT活用教育を推進する上で、学習管理システムの理解と活用がかなり重要であることが、体験を通して肌で感じてもらったことは、日本の初等・中等・高等教育の教育改革を図る上で大きな前進である。

## 謝辞

本研究は、佐賀大学クリエイティブ・ラーニングセンター(旧佐賀大学eラーニングスタジオ)のスタッフらの多大なる協力を得て遂行した。特に、講師として共同推進した藤井俊子氏および講習を全面的に支援していただいた久家淳子氏らに感謝

の意を表す。

## 参考文献

- (1) 日本視聴覚教育協会：教育ICT活用実践事例集-，平成23年度 文部科学省委託  
www.javea.or.jp/eduict/h23jirei/all.pdf.  
(2017/11/21アクセス)
- (2) 大学eラーニング協議会・日本リメディアル教育学会監修：大学におけるe ラーニング活用実践集～大学における学習支援への挑戦～，ナカニシヤ出版，2016.
- (3) 佐賀大学教員免許状更新講習一覧：  
http://www.menkyo.saga-u.ac.jp/koushu/  
(2017/11/21アクセス)
- (4) 中央教育審議会(答申:2012/8/28)新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～：  
http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm.  
(2017/11/21アクセス)
- (5) 山梨大学\_反転授業紹介:YouTube,  
https://www.youtube.com/watch?v=HrnHTrPPNRA (2017/11/21アクセス)
- (6) 穂屋下 茂，角 和博：大学eラーニングの経営戦略 ～成功の条件，吉田文，田口真奈美，中原淳編著，東京電機大学出版局，95-128，2005.
- (7) 古賀崇朗，藤井俊子，中村隆敏，角 和博，高崎光浩，大谷 誠，江原由裕，梅崎卓哉，米満 潔，久家淳子，時井由花，河道 威，本田一郎，永溪晃二，田代雅美，穂屋下 茂：教養教育におけるネット授業の展開，大学教育年報，佐賀大学高等教育開発センター，No.8 (2012)，33-45.
- (8) 藤井俊子，田代雅美，穂屋下 茂：“授業におけるLMS活用の実践事例ーLMS利用促進を目指した授業ー”，コンピュータ&エデュケーション，Vol.31 (2011)，pp.66-69.
- (9) 米満 潔，古賀崇朗，永溪晃二，高崎光浩，穂屋下 茂：大学コンソーシアムでの同期型遠

- 隔授業の環境構築と実践，教育システム情報学会誌，29-3（2012），165-169.
- (10) 穂屋下 茂，河道 威，大塚清吾：ネット授業科目を用いた反転授業の試み，日本リメディアル教育学会，第7回九州・沖縄支部大会&初年次教育学会交流会（久留米大学）（2014），20-21.
- (11) 穂屋下 茂（監修）：就業力を育むデジタル表現技術者養成プログラムー創造的表現力を重視したアクティブ・ラーニングの実践ー，五弦舎，2016.
- (12) eラーニング共通基盤推進事業：  
<https://www.uel.ac.jp/cloud/el-kiban/>  
（2017/11/21アクセス）
- (13) 穂屋下 茂：入学前後のリメディアル教育，日本リメディアル教育学会全国大会（広島修道大学）（2013），187.
- (14) 穂屋下 茂：学士力と単位の実質化とリメディアル教育，リメディアル教育研究，日本リメディアル教育学会，7-1（2012），1-2.
- (15) 穂屋下 茂：eラーニングシステムによる生涯学習の推進，ネットワーク社会における生涯学習，AVCC，Vol.4（2004），46-49.
- (16) 時井由花，本田一郎，岡島俊哉，角 和博，藤井俊子，穂屋下 茂：eラーニングによる教員免許状更新講習『教員のための環境教育』の実践，2010 九州PCカンファレンス in 長崎大学（2010），24-25.
- (17) 穂屋下 茂：ICT 活用教育共同利用拠点の構築（ネット授業スタジオからクリエイティブ・ラーニングセンターまでの展開），リメディアル教育研究，日本リメディアル教育学会，11-2（2016），205-211.

（附録）教員免許状更新講習「学校現場で活用できる学習管理システム」での感想や次回講習に向けての要望などの自由記述の抜粋（2011年～2017年）

- (1) 最初は難しい内容ではないかと心配したが，テンポよく，説明がわかりやすかったので，大変有意義で楽しい研修でした。このLMSがすべての学校に平等に導入されることが可能かと考えると，かなりの時間がかかると思う。しかし，導入されれば，教科経営，学級経営に大きく役立つと考えられる。今日は簡単な活用法ばかりだった。もっと深く学習したいと感じた。（2011年）
- (2) 説明が非常に詳しかった反面，基礎的事項に内容が留まったのが残念だった。もっと実用的な使い方の例をたくさん知りたかった。もっとスピードを上げてよかったと思う。（2011年）
- (3) LMSを学んで，簿記の授業等で活用できればもっと教育効果も上がると思う。機会があればぜひ受講したいと思った。要望として，1日6時間の講習では短く，例えば2日ぐらいかければより良い学習効果が得られると思う。一般の講習としてわれわれ教員が気楽に参加できる研修会も今後考えて欲しい。（2011年）
- (4) 受講して，あまり知ることのなかった分野を知ることができて大変満足をしている。また，講師の先生方の熱心で親身なご指導に大変感謝している。特に，ちょっとした躓きで全体の進度に遅れをとった場合も手を上げるとサポートの方々がすぐに来て，適確な指示や支援をいただいたことに教育現場でもっとも大切なことを教えていただいた。贅沢を言わせていただければ，会場が若干暑くて狭かった。（2011年）
- (5) 教室にいなくても授業を受けたり，テストをしたりできる点については，保健室登校や不登校の子どもや，欠席時の補充などでも活用できるようになると考えている。（2011年）
- (6) 普段の勤務でなかなか最新の教育に触れる機会が少ないので，今回の講習は本当に刺激になった。講習に対しての要望は，今回のように，教師として自らを振り返ることのできる機会になれば幸いで

- あると思いますし、教師の原点を思い出させてくれる講習であることを願います。(2011年)
- (7) Moodleを利用すれば、分野分析や生徒の習熟度にあったテスト作成ができるので、小テストや到達度テストなどの作成に有効利用ができる。フォローやサポートもしっかりしているシステムなので、今後の教育現場への導入は大変効果的である。(2011年)
- (8) MoodleはLMSとして直感的に作業できて、よくできているシステムで使いやすいと思った。基礎基本の習得のためのドリル作成によい。講習は、もっと小問題作成についていろいろな設問や解答の違ったパターンでの作業を中心にしてもよいと思う。(2011年)
- (9) できればより学校現場で使えるような演習や実技内容が学びたかった。(2011年)
- (10) 教員免許状更新の講習にあたり、夏休みでもなかなか時間をとることが難しく、一講習をインターネットで受講した。自分の空き時間に受け、理解できなかったところを繰り返し見る事ができて時間を有効に使うことができた。その教材等の作り方や活用方法を分かりやすく説明をしていただいた。学校教育の中で様々な面で活用できるので、もっと詳しく活用方法等を知りたかった。(2011年)
- (11) LMSを導入すれば、より効率的に効果的に学習や評価が行われることを実感した。小学校の現場ではいくつかの課題があるが、利点もたくさんあるので、これから学校全体で取り組まなければいけないと思う。(2011年)
- (12) 教科の中で活かせないかと考えてみたら、家庭科の場合、「ホームプロジェクト活動」という問題解決学習に活かそうである。身近な生活の中から自分の課題をみだし、それを改善する方法を考え、計画を立てて実践する、その結果を反省・評価する活動である。反省・評価の際、家族や友人、教師の意見を聴き、授業の中で発表することを行う。その実践の中で、調べ学習をするときのインターネット活用や、実態調査の行う際の集約、アンケート調査の活用などに利用できると感じた。また、発表するときに、パワーポイントを利用できる等、この講習で参考になる点が多々あった。クラス管理においても、掲示板や談話室等はヒントになると思った。(2011年)
- (13) Moodleにいろんな利用法があることを体験できてよかった。今回体験したフォーラム、オンラインテキスト、投票、ラベルなど学校現場で利用すると効率が良くなる。小テストも簡単にでき、時間のある時に教材を作っておけばいろんな授業展開ができる。投票についてもアンケートの多い教育現場ではとても有効かつ効率のよい機能で作業時間の短縮になると思った。(2012年)
- (14) 今後導入される電子黒板や情報端末と連動すれば、今回の講習で会得した技術は学校現場で活かされ、業務の効率化・負担軽減が十分期待できるものであった。導入するにあたっては、統一された規格のものが導入されれば良いと思う。その理由は、転勤したときに余計な手間が省けるからである。ぜひ多くの学校で導入され普及することを希望する。(2012年)
- (15) テキスト(資料)も分かりやすく作成されていたので順序よく進めることができた。LMSについては、数年前に韓国のLMSを見せてもらう機会があったので何ができるのか少しだけ知っていたが、実際に操作したことはなかった。今回、Moodleの説明を受けてフォーラムや資料提示、課題作成、小テスト等の操作を体験でき、どのように作っていけばよいのかとてもよく分かった。現在、県は独自の基幹システムを作りつつある。LMS(学習管理システム)、LCMS(教材管理システム)、校務管理支援システムのプロトタイプが一部の学校で運用されている。メニュー等は異なると思うがよく理解することができた。もう少し時間的に余裕があれば、それぞれの教科・科目で小テストを制作するといろんな問題を見ることができ、作成のヒントにつながるかなと思った。(2012年)
- (16) ICTの利活用が言われているが、最新のLMSについての基礎知識・技能を学ぶことができ大変有意義であった。しかし、学校現場では、機器等の設備が十分な学校、不十分な学校があり格差があり、自分の学校ではすぐ活かせない状況にある。(2012年)

- (17) Moodleという自分としては初体験のLMSのほんの入り口だったと思うが、貴重な経験ができた。惜しむらくは、早速、学校現場でも試してみようということができないことである。このようなシステムがあれば、児童への学習指導の引き出しが増えることは確かであり、使い方さえ誤らなければ大変有効であろう。(2012年)
- (18) MoodleというLMSに初めて触れたが、学校現場にこのようなシステムが配備されれば、事務処理・学級経営・教科の教材研究に大きな力となると思った。できれば中級編も受講してみたい。ただし、このシステムが現在の職場にはなく、せっかく今日学習した内容を復習・実践しようとしても出来ないということが残念である。欲を言うならば「小テスト作成」の部分を実際自分の担当教科でやってみたかった。(2012年)
- (19) 講師の先生方が説明しても、何処にカーソルを持って行っているのかがよく分からなかった。目の前のパソコンと、スクリーン、資料のプリントを同時に見て、さらに説明を聞く。一度にいくつもの作業をすることはかなり至難の業でした。もし、Moodleのシステムをインストールできるならやらせて欲しい。(2012年)
- (20) 先進的ICT利活用教育推進事業が始まり、推進リーダーとして各種の研修会に参加した。今回の研修でLMSについて実際に体験することができ、改めてこのシステムの有用性を知ることができた。掲示板や談話室、問題作成と学習者と指導者の相互通信のベースとなる教育管理システムの演習は一度で覚えるのは難しいと思ったが、マニュアル通りに進めていけば基本的なことはできるようになり、ぜひ学校での導入ができたらと思った。今後、このシステムに関わっての研修が行われたら参加したいと思う。(2013年)
- (21) LMSについて研修を積むことは、まさに今県の公立学校の教員が直面している課題の一つである。システム自体の技術的な方法はさまざまであろうが、「何ができるのか」、「何ができないのか」、「どういった場面で役に立つのか」など、実際に運用していく上で役に立つことを数多く学ぶことができた。ぜひとも今後の教員生活に生かしていきたいと考えている。(2013年)
- (22) 学校現場で活用できるLMSの講習は、初めて知るようなことが多く、非常にためになった。今までICTを使った様々な講習でされていたことが、どのようなシステムであるようなことができるか知っていたのが、今回の講習で分かり、ぜひ自分も使ってみてみたいと思った。また授業の中でも、子どもたちが意欲的に授業に取り組めるようなアイデアの一端を教えていただき、とてもよかった。(2013年)
- (23) eラーニングを学習して、今の時代にとっても必要なものと感じた。実際に行った実技は、とても楽しく充実していた。インターネットなどで今まで何気なく行っていたことが、学習した内容でできることがわかり感動した。人がいつでも学習できる環境づくりに、私も少しでも手助けができるように、これからも学習を続けていきたい。(2013年)
- (24) 今回は理論から実践的な利用まで、想像以上に充実した内容の講習であった。Moodleを利用した個別のPC指導は新たな可能性を感じさせてくれた。例えば、生徒からの回答を回収するシステムは、ペーパーレスであり、かつ評価をしたあとへのフィードバックも容易になる。アンケートの機能も授業でのメリハリをつけることに役立ちそうだ。講習中にも説明があったが、教材の共有をしていくことで、準備にかかる時間もセーブできるし、よりよいものができることに期待できる。来年から高校へは導入されるが、いろいろな可能性があることが分かり、不安もあるが期待もしてよいのではないかと、この講習を受講して感じた。(2013年)
- (25) 高校の現場では、電子黒板やタブレットPCを現在使用してはいるものの、効果的な使用ができているかどうかはよくわかりませんでした。今回の講習で、県は高等学校だけでなく、大学においてもICT

教育が他県に比べて進んでいることがわかった。講習後に、紹介された「でんでんむし」,「佐賀デジタルミュージアム」をほとんど視聴した。特に,「でんでんむし」は東日本大震災の被災県にいた方々の生の声を聞けて、本当にすばらしい教材になると思った。後世に語り伝えなければならない内容が数多く含まれていると思います,感動した。(2016年)

(26) LMSの使い方が大変よく理解できた。県の学校の場合, SEI-Netがこれにあたり, 今回勉強した様々な機能と同じことができるのではと感じた。今回学んだことで教育システムがどのようなシステムか大きなイメージはつかめた。SEI-Netは出席統計や成績といった一部の機能しか利用していないので, 夏季休業中に何ができるのかを調べてみたい。(2016年)

(27) 講習前半の佐賀大学におけるICT活用教育の取組とLMS (Moodle) との関連性をもう少し詳しく説明をして欲しかった。今回学習したMoodleで今何ができるようになっているのか, 教材作成に何時間ぐらいかかるのか, 具体的な例で示して欲しかった。紹介していただいた, 「佐賀デジタルミュージアム」のような使い方ができることはわかったが, 学生の閲覧状況などを管理者側はどのようにして把握して評価につなげていくのかなども取り扱って欲しかった。今回のMoodleについて, 中級・上級があれば教員免許状更新に関わらず講習を受けてみたい。(2016年)

(28) 佐賀大学eラーニングの各種コースを閲覧させてもらった。祭りコースの多久聖廟の釈采については, あらましを知ってはいたが, 実際に動画で見ると厳かな雰囲気を改めて感じた。(2016年)

(29) ICTを活用した授業が当たり前になっている県において, 如何に質が高く, 教育効果の高い利用の仕方をするかが問われている。学校現場では試行錯誤しながら利用しているが, 今日の実習で, 課題レポート, 投票, 多選択肢など, 様々な課題の提示の仕方があることとその制作方法を学び非常に参考になった。問題を作り溜めするまでには時間を要するだろうが, 授業の予習や復習を自宅でできること, それを教師が確認できることは大きな魅力である。(2016年)

(30) ICTの利活用が十分に利用できる環境が整っているのであれば, 教職員の多忙化が解消され, それにより時間的余裕が生まれる。そして教員の本務である児童生徒への教育活動に時間を充てることができる, というように, ICTの利活用によって学校の業務の軽減と効率化ができれば生徒にとっても大変良いことだと思う。今回学んだMoodleについては, 教師も生徒も利用しやすいシステムだと実感した。また, 新バージョンではスマートフォンでも利用できるところなど利用者に配慮したものだった。(2017年)